

第12回金融教育に関する小論文・実践報告コンクール

優 秀 賞

実践報告部門

**税の使い方から考えるわたしたちの
暮らしと未来のまちづくり**

石川県・北陸先端科学技術大学院大学 助教 小林 重人

知るぽると
www.shiruporuto.jp

© 金融広報中央委員会 2015

1. はじめに

租税教育は金融教育の中でも重要な位置を占めるものである。金融広報中央委員会が定める「学校における金融教育の年齢層別目標」においても中学生では「政府の経済活動の意義」や「租税の意義と役割」を理解することが目標とされており¹⁾、中学校学習指導要領においても同様の内容が記載されている。また、租税教育を推進している東京税理士会も「税」を通して社会を考えることが若者たちの「生きる力」を育むと述べている²⁾ことから、租税教育の狙いは金融教育と同じく、生徒の「主体性」や「自立性」の涵養にあると言える。

しかし、納税者であったとしても自分たちが納めた税金が何にどのくらい使われているのか、その詳細を把握できている人はそれほど多くはない。そこで、納税者として税の用途に関して具体的かつ責任のある意見を述べられるようになるためには、政府や地方自治体が提供するサービスの受益と負担の関係を生徒のうちから将来の暮らしに関わる自分ごととして捉えて理解することが不可欠であると考えた。

2. 授業の構想

生徒たちにとって税をより身近なものとして、かつ将来の自分ごととして認識してもらうためには、国単位ではなく、生徒たちが今暮らしているまち単位の財政やまちづくりを題材とすることが相応しいと考え、自治体の歳出・歳入に着目して税の用途を学ぶこととした。そのための教材として自治体における税の用途をわかりやすく学ぶことができるカードゲームとウェブサイトを作成し、それらを用いて「税の用途」という視点から自分の暮らしや将来について思考できるように以下の4つを実践する授業を立案した。

1. わたしたちの暮らしの中で税がどのように使われているのかカードゲームと自治体の予算書を使って学ぶ。【知る】
2. ウェブサイトを使って将来自分たちが納める税額を調べる。【知る】
3. 税が何にどのように使われているのかを知ることができるウェブサイトのデータを自分たちで更新し、歳出の変化をグループで分析する。【行動する、考える】
4. 自分たちが住んでいるまちの10年後における税の使い方をグループで考えて発表する。【考える、行動する】

本授業は2015年7月9日に能美市立寺井中学校における体験学習講座の一環として中学校側から講師依頼を受けて実施されたものである。授業には32名（1年生10名、2年生16名、3年生6名）が参加し、グループ学習を進めるために32名を7つのグループに分割した。授業時間は連続で2時間半と設定され、その授業時間に基づいて指導計画書を作成した（資料1）。

3. 授業教材

多くの地方自治体では、税の用途やその金額を予算書や決算書としてウェブ上で公開しており、それらは誰でも自由にアクセスすることができる。こうしたデータを適切に取り扱えることは金融教育の観点から重要であるが、多くの場合、それらはPDFデータとしてそのまま公開されており、独特な用語等があるため中学生がその詳細について自力で理解することには困難を伴う。そこで、本授業では自治体が公開している予算書のデータを用いて税金の使われ方を知ることができるウェブサイトを生徒自らが更新することを通じて、データの適切な扱い方と自分たちのまちにおける税の用途を理解することを目指した。

更新するウェブサイトは、税金の用途を可視化する「税金はどこへ行った？」³⁾というサイトで、自分の年収を入力すると、納めた市民税が、歳出のどの部分にどれくらい使われているかが一目でわかるようになっている。この「税金はどこへ行った？」の能美市のウェブサイトの基本的な部分は既に筆者が構築していたが、2014年度分のデータまでしか用意されていないので、本授業で生徒たちに2015年度分のデータ更新を担ってもらうこととした。



「税金はどこへ行った？」のウェブサイト(石川県能美市のサイト画面)

4. 授業内容

(1) 暮らしの知識として税を捉える

まず初めに「税」に関する基礎的な知識を共有するために税の存在意義、間接税と直接税の違い、そして国税と地方税のしくみと予算の決定方法について概観した。この際に注意したことは、税がおとなになって初めて自分たちに関係するものではなく、生徒である今の暮らしにも大いに関係するものであるという気づきを自分のこれまでの経験の中から生み出すことである。そのために、自分たちが通っている学校や普段利用している図書館が税によって維持されていることを説明した上で「これらの施設やサービスがなくなったら自分たちの生活がどうなるか」という問いかけを行ったり、さらに自分自身で税を支払った経験がないか振り返ってもらったりした。そうすることで単なる教科としての知識として税を捉えるのではなく、自分たちの生活に根ざした知識として税を捉えることが可能となった。

(2) 自分たちが住むまちにおける税の使われ方を知る

では実際に自分たちの暮らしの中で税がどのように使われているのか、中学社会公民的分野の教科書の中でも自治体の歳入・歳入の構成が扱われているが、それらの多くは最大の分類項目である「款」のみに留まっているため、具体的な使途を生徒が想起することが難しい。また「民生費」や「総務費」といった生徒にとって聞き慣れない費目名も彼らのスムーズな理解の妨げになっていると考えられる。

そこで本授業では、歳出の分類項目を款だけではなくその下位分類である「項」や「目」にまで広げ、生徒がより詳細な使途を知ることができようになると同時に、費目名に対応する代表的な使途をわかりやすく理解することができる教材として税金カードゲームの開発を行った（カードゲームの遊び方と実際のカードは資料2を参照）。

このカードゲームを用いることで自治体の歳出の費目と使途を楽しみながら学べるだけではなく、授業における生徒たちの緊張を和らげる狙いもある（資料3の1）。実際にこのカードゲームに対する生徒たちからの評価と学習効果については授業後に実施したアンケート結果からも高いことがわかっている（資料4図1、2）。ゲームで使ったカードはその後も生徒の手元に置いておくことで、必要なときにいつでも参照できる資料として価値を発揮することができた。

こうした準備学習をした後で、次に一次情報である自治体の予算書をグループで読むことを行った。あえて一次情報に触れさせる目的は、正しい情報を自分たちの力で読み取ることの重要性を知ることと、それらを読み取る能力を身に付けてもらうためである。そのために予算書は、実際に生徒たちが住んでいる自治体がウェブサイト上で公開しているものを採用した。歳出の金額の読み方を説明した上で、最も金額の大きい款と項が何であるか、そして生徒たちが通っている中学校のためのお金（中学校費）にどれだけの金額が使われているか調べる課題を出した。この課題はすべてのグループで達成され、生徒たちは金額の大きさに驚くと共にゲームで使用したカードを参照しながら何にどれくらい使われているのか自主的に調べることができていた。

(3) 自分たちが将来納める税額を調べる

自治体の歳出の使途については理解できたが、歳入の項目がどのように構成され、またそれらはどこから集められるのであろうか。ここで生徒たちがおとなになったときに納める可能性がある税の種類（所得税、固定資産税等）を例示し、そのうち自分たちが住む自治体の歳入に関わる税（市町村民税等）について説明を行った。次に生徒たちには自分たちが将来納める市民税の金額をいくつかのシナリオに基づき、冒頭で紹介した「税金はどこへ行った？」能美市版のウェブサイトを用いて計算してもらった。

用意したシナリオは年収500万円と年収1000万円の場合、そして独身（単身世帯）と家族がいる（扶養あり）場合の2つである。これらのシナリオを用意した理由は、所得による税額の違い、そして扶養の有無による税額の違いを比較することで、なぜそのような差異が生じるようになっているか考えてもらうためである。アンケート結果からも、生徒たちは計算された税額が高いと感じたようで（資料4図3）、自分たちの保護者の状況に照らしあわせることで税負担の大変さを実感する生徒もいた。シナリオによる差異を比較することまではほとんどの生徒ができていたが、なぜそのような関係になっているのかまで言及することができた生徒は少数であった。このことから、今後はシナリオに生活実態といったリアリティを持たせた説明を入れ込む必要がある。

(4) 必要なデータを抜き出してウェブサイトのデータを更新する

冒頭で言及した通り、「税金はどこへ行った？」は、2015年度の予算データがまだウェブサイトには反映されていない

い。そこで生徒たちには「開発者」になってもらいデータを更新して欲しいこと、そしてそのことが税金の使われ方を知らない多くの市民のためになることを伝えた。データ更新のためには今年度の予算書から必要なデータを抜き出して表計算ファイルに入力する必要がある。既に生徒は予算書の読み方を把握しているので、データの入力作業は特に問題なく実施することができた（資料3の2）。

（5）歳出の使途の変化を分析する

ウェブサイトが更新されたことを確認した上で、昨年度と今年度における歳出の違いをワークシート（資料5）に書き出してもらった。発見した変化をグループごとに検討・発表してもらう中で「なぜそのような変化が起こったのだろうか」という問いかけを行った。公債費の増加に着目したグループが多く、その理由として「借金が返せなかったから」などの意見が挙げられた。他にも「土木費」や「民生費」の増加に着目できたグループがあったが、その理由までは言及することはできなかった。講師は理由について説明できるよう、事前に自治体の予算編成等をあらかじめ調べておくと、生徒の質問に対してもその場で応えることができる。

（6）自分たちが住むまちの10年後の姿を考える

これまで将来納める税額を自ら計算することで納税者の立場を体験し、歳出の年度別変化を調べることで、税の使途が年によって大きく変わり得ることを学んだ。さらに将来、税の使われ方を決める当事者として意見を述べるができるようになることを目指して、おとなになったときに自分たちが納めた税をどのように使ってもらいたいかを考えるシミュレーションを行った。自分たちの将来に関わる意識を持ってもらうために、生徒たちには10年後に自分たちのまちがどのようになって欲しいか自分の考えを3つ書いてもらった（資料6の1～3）。次に個別で書いたものをグループ内で見せ合ってなぜそのように考えたのか説明してもらった。「自然あふれるまち」という意見が出された一方で「高層ビルがあるまち」といった意見もあり、相反する意見については根拠を示しながらなぜそう思うのか話し合うことを推奨した。

最後にグループで共有された10年後のまちの未来を実現するために、歳出項目のうちで支出を増やしたいものと減らしたいものをそれぞれ3つ以上選び出し、その理由についてグループで話し合ってもらった（資料6の4～6）。この際に、正解は存在しないこと、収支のバランスを考えて選択することを伝えた。自分たちが書き出したものに合うよう支出を増やしたい項目を選ぶことはできていたが、反対に支出を減らしたいものを選ぶことは難しいようであった（資料3の3～6）。支出を増やしたい項目ばかりになったグループに対しては、このままだと税額を増やす必要があることを伝え、増やしたい項目を見直すよう促すことで対応することができた。

5. まとめ

授業終了後に生徒に対して実施したアンケートの結果からは、本講義に参加したほとんどの生徒が税金について理解することができ（資料4図4）、税金の使い方を知ることが大切であると回答している（資料4図5）。さらに参加した78%（25名）の生徒が税金を納めることは自分たちの義務だと思うと答えている（資料4図6）。このことから本授業によって生徒たちが税や財政について関心を持ち、将来的に自分たちが社会を支えていく意識が形成され始めたと考えられる。

税金の使い方についても生徒の22%（7名）が「適切だと思う」、34%（11名）が「少し適切だと思う」、6%（2名）が「あまり適切だと思わない」、3%（1名）が「まったく適切だと思わない」と回答したことから（資料4図7）、生徒の半数以上は税の使途についても主体的な判断をするための態度が身に付いてきたと考えられる。こうした態度を身に付けた市民が増えることは、将来的に行政の透明性を高めることに寄与するものである。実際に生徒の62%（20名）が本授業によって能美市のことを少しでも知ることができたと回答していることから（資料4図8）、地域の実態に即した金融教育を実践することが、自分たちのまちに対する愛着を高め、地域を理解した上で自立的な意見を述べる市民の育成にも繋がっていくと言える。

授業の最後に生徒たちに対して、みんなの力を合わせることで市民にとってもわかりやすいウェブサイトができたことを伝え、ウェブサイトの開発者として全員の名前が掲載されたページを見せたところ、授業中で一番の盛り上がりを見せた。アンケートでもこの「サイトをまた作ってみたいと思いますか」という質問に対しては76%（22名）の生徒が何かしらの形で「作ってみたい」と回答した（資料4図9）。これらの結果は、物事を見聞きすることよりも自らの手を動かして何かを作り考えることのほうが生徒の強い関心と多くの学びや気づきを得られることのひとつの証左と言えよう。

ICTが普及したことにより、生徒ひとりひとりの協働によって、これまで専門家しか作れなかったものが自分たちの手によって簡単に作れる時代となっている。生徒の「主体性」と「自主性」だけではなく「創造性」を伸ばすためにも、金融教育の現場においてICTや公共データを用いた教育ツールの積極的な導入と活用が期待される（本授業の適用方法については資料7を参照）。

注1) 金融広報中央委員会『金融教育プログラム「学校における金融教育の年齢層別目標」』2015年3月

URL <http://www.shiruporuto.jp/teach/school/mokuhyo/pdf/mokuhyo000.pdf>

注2) 東京税理士会「租税教育標準テキスト Ver.1」平成25年6月

URL <http://www.tokyozeirishikai.or.jp/common/pdf/topics20130703.pdf>

注3) ウェブサイト「税金はどこへ行った?—WHERE DOES MY MONEY GO?—」

URL <http://spending.jp/>

資料1 指導計画書

税の使い方から考えるわたしたちの暮らしと未来のまちづくり

(実施時間：約2時間半)

【実施学年、教科等】

中学全学年、社会（公民的分野）

【授業の目標】

1. 市民が納めている税が自分たちの暮らしの中でどのように使われているかを理解できるようになる。
2. 将来の自分が納税することを想定し、社会における役割（納税義務）と自分の暮らしにおける税の重要性を理解する。
3. ウェブサイトや表計算ソフトを利用してデータを調べたり、整理したりすることを通じて、コンピュータを使った情報の適切な調べ方を身に付けることができるようにする。
4. 自分たちが暮らす自治体の財政や税の使途について思考することができ、その考えを理由と共に表現することができる。

【学習の評価】

1. 税に関する基礎的な知識を習得するためのワークシートに記入し、税の使途や意義について理解できている。
2. 保護者や自己が将来に渡って果たすべき（果たしている）役割について考えることができている。
3. データの比較によって差異を発見することに意欲的に取り組み、その変化の理由について発表することができている。
4. 自分たちが望む将来のまちづくりについて、税の使途という観点から思考し、発表することができている。

【展開の特色】

1. 納税者であっても納めた税がどのように使われているか把握できていないのが実情である。本授業は、生徒たちが住んでいる自治体の歳出・歳入に着目することで、自分たちの暮らしという文脈から「税の使途」について考える機会を与える。
2. 歳出の項目と使途をわかりやすく理解できるカードゲームを通じて、「税」という難しいテーマへの心的障壁を下げる。
3. 市民税を算出できるウェブサイトを使用した調査を行うことにより、税と自分たちの暮らしとの関係について将来の自分ごととして意識しながら考えることができる。
4. 予算書からデータを抜き出し、実際にウェブサイトの情報をアップデートすることにより、データの扱い方について身を以って学ぶことができるだけでなく、データを自分たちの暮らしの知識へ変換することの意義について考えることができる。
5. 誰もが使えて役に立つウェブサイトの作成に関わることにより、地域貢献と市民の役割について意識を持たせ、地域に対する愛着を高めることができる。

【指導計画表】

	学習内容	学習活動	金融教育の視点	指導上の留意点	その他（資料等）
導入	税とは何か。 (15分)	<ul style="list-style-type: none"> ●税が社会を支えるために必要なお金であることを理解する。 ●税の流れ（簡単なしくみ）を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆公共施設や公共サービスが税によって支えられていることを説明する。 ◆税における政府や自治体の役割について理解する。 ◆税の意義と役割、納税の義務について理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇税がなくなったと想定した場合の身の回りの生活の変化を考えさせる。 ◇自分たちの暮らしの中で税がどのようなものに使われているのかを考えさせる。 	

	学習内容	学習活動	金融教育の視点	指導上の留意点	その他（資料等）
展開	(1) 税の用途を知ろう。 (25分)	●自治体の歳出区分(款・項)に対応した税金カードゲーム(カルテット)で遊ぶことで、大まかな税の用途を知る。	◆税と自分の暮らしや社会との関係に気づく。	◇各歳出区分でどのくらいの金額が使われているかを予想させる。	・カードゲーム ・予算書の資料 ・ワークシート
	(2) 歳出の構成比(金額)を知ろう。 (15分)	●自治体の予算書をグループで読み、各歳出区分でどのくらいのお金が使われているかを調べる。 ●歳出区分の中で最も大きい金額と2番目に大きい金額をグループで調べてワークシートに記入する。	◆自治体の歳出構成比と金額を知ることによって自治体の財政の特徴を理解する。	◇ゲームで使ったカードと予算書の資料を対応させて考えるように促す。 ◇歳出項目について自分たちの身の回りにあるものに置き換えて説明する。	
	(3) 将来納めるであろう税額を調べる。 (15分)	●「税金はどこへ行った？」のサイトを利用して年収に対するおよその市民税額を調べる。 ●1日当たり何にどのくらいの金額が使われているかを調べる。 ●年収によって税額が異なることの原因について考えさせる。	◆年収や世帯構成による税額の違いを知る。 ◆年収と税の関係について考えさせ、将来における勤労と納税についてイメージする。 ◆将来に支払うであろう税額を知り、社会の役割とお金の価値の重さ、及び勤労の義務について理解する。	◇年収の違いによって税額が違ってくる理由を説明する。 ◇保護者をはじめとした地域・社会の人たちの納税によって地域社会が成り立っていることを解説する。	・パソコン ・「税金はどこへ行った？」ウェブサイト(各市町村版)
	(4) データを入力してサイトを更新しよう。 (10分)	●「税金はどこへ行った？」のデータ更新を通じて、歳出項目と金額について再確認する。 ●自治体の予算書から必要なデータを探し出し、データを表計算ソフトに入力、最後に合計金額が合っているか電卓を使って確認する。	◆公共データから経済社会に関する情報を得る能力を身に付ける。	◇金額の桁数が大きくなるので計算と表計算ソフト入力のサポートを行う。	・パソコン ・予算書 ・記入表 ・表計算ソフト ・電卓
	(5) 新しく更新されたデータと過去のデータを比較しよう。 (15分)	●データを比較しながら、年度によってどこが変化したのかを自分たちの力で見つけて、その理由を考える。 ●違いを発見した箇所についてグループで発表する。	◆経済的な変化や課題について自ら考える態度を身に付ける。	◇なぜデータが変化するのかを説明する。	・ワークシート ・「税金はどこへ行った？」ウェブサイト(各市町村版)
	(6) 自分たちが住む町を10年後にどのようにしたいか考える。 (15分)	●納税者となるであろう10年後に自分たちが納めた税金をどのように住んでいる町のために使ってもらいたいかを考える。 ●どんな町にしたいか自分の考えを3つ書いて、それらをグループ内で共有する。	◆将来の自分ごととして、税と自分の暮らしや社会との関係について考える。	◇10年後に当自治体で想定される事象についてわかりやすく説明する。	・付箋紙 ・模造紙

	学習内容	学習活動	金融教育の視点	指導上の留意点	その他(資料等)
	(7) 税の使い方 を考える。 (20分)	<ul style="list-style-type: none"> ●自分たちが考えた10年後の町の姿を実現するためには現在の歳出項目をそれぞれ増やすべきか、減らすべきか、納税者の立場になって考えてグループで発表する。 ●自治体が提供する公共サービスの受益と負担の関係を考える。 	◆まちづくりに対して具体的な意見を述べる態度を身に付ける。	◇歳入と歳出のバランスを考慮する必要があることと一意の正解はないことを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・予算の増減を分類する際に冒頭のカードゲームで使用したカードを再利用する ・模造紙
まとめ	(8) 講義のまとめをする。 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ●振り返りシートに本講座で気づいたことを記す。 ●税についてのまとめ。 	◆税の働きや役割を理解する。	◇みんなの力を合わせることで市民にとってもわかりやすいサイトができたことを伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシート

資料2 税金カードゲーム（カルテット）の遊び方とカードデザイン

(1) 遊び方

カルテット

- 同じグループのカードを4枚そろえましょう
- 4枚組をたくさん作った人の勝ち！
- 4枚×8組＝全32枚
- 能美市の支出（歳出）区分に対応したグループ

農業水産業費、畜産業費、林業費、水産業費、畜産業費、水産業費

農業水産費のグループに含まれるもの。この場合は「農業費」

農業費の主な使い道
● 農業費
農業の振興、農地整備

1

歳出の区分（款・項）

款（かん）：最も大きなグループ

項（こう）：款（かん）の次の小さなグループ

● 農業費
農業の振興、農地整備

- 款（かん）と項（こう）の金額と使い道は市議会での話し合いによって決めます。

2

カルテットの遊び方（1）

- カードをよく切り、カードの表面が見えないようにすべてのカードを配る。
- 自分の持っているカードは、他のプレイヤーに見えないようにしてください。
- じゃんけんして勝った人が他のプレイヤーの誰かに自分が欲しいカードを持っているかどうか聞く。
 - 「商工費」の「観光費」のカードを持っていますか？
- 聞かれた人がカードを持っていたら、聞いた人にカードを必ず渡す（ウソはつかないこと）。

3

カルテットの遊び方（2）

- 当たった場合は、もう一度カードを持っているか聞けます。
 - 聞いた人は同じ人でも別の人もOK
- ハズレた場合は、今度は聞いた人の左の人が聞く方になり（時計回り）、別の人にカードを持っているかどうか聞く。
- 同じ種類のカードが4枚そろったら、自分の前に出してください。

4

農業水産業費 のうぎょうひ ちくさんぎょうひ 農業費 畜産業費 りんぎょうひ すいさんぎょうひ 林業費 水産業費	総務費 そうむかんばんひ ちようぜいひ 総務管理費 徴税費 せんきよひ どうけいそうむひ 選挙費 統計総務費
商工費 しょうこうそうむひ しょうぎょうしんこうひ 商工総務費 商業振興費 こうぎょうしんこうひ かんこうひ 工業振興費 観光費	土木費 どうろきょうりょうひ かせんひ 道路橋りょう費 河川費 としけいかくひ じゅうたくひ 都市計画費 住宅費
教育費 しょうがっこうひ ちゅうがっこうひ 小学校費 中学校費 しゃかいきょういくひ ほけんたいいくひ 社会教育費 保健体育費	民生費 しゃかいふくしひ じどうふくしひ 社会福祉費 児童福祉費 せいかつほごひ まいかいきゅうじょひ 生活保護費 災害救助費
衛生費 ほけんえいせいひ かんぎょうえいせいひ 保健衛生費 環境衛生費 せいそうひ しにょうしりひ 清掃費 し尿処理費	消防費 じょうびしょうぼうひ ひじょうびしょうぼうひ 常備消防費 非常備消防費 しょうぼうしせつひ まいかいたいさくひ 消防施設費 災害対策費

5

クイズ

- カルテットの8グループ以外で能美市の歳出（支出）に含まれているものは何でしょう？
- ヒント1
 - 能美市の歳出（支出）の約15%を占めます。
- ヒント2
 - お金を持ってない。でもどうしても買いたいものがあるときはどうする？

6

(2) カードデザイン

 <p>● 農業費 農業の振興、農地整備</p>	 <p>● 畜産業費 畜産業の振興</p>	 <p>● 林業費 林業の振興、森林整備</p>	 <p>● 水産業費 水産業の振興</p>
 <p>● 商工総務費 市商工会、中小企業助成</p>	 <p>● 商工振興費 地域商業・商店街活性化 公衆浴場助成</p>	 <p>● 工業振興費 地場産業振興、九谷焼振興 企業立地促進</p>	 <p>● 観光費 観光事業促進、おまつり</p>
 <p>● 社会福祉費 障害福祉、老人福祉 後期高齢者医療</p>	 <p>● 児童福祉費 保育園、父子母子福祉 児童厚生福祉</p>	 <p>● 生活保護費 生活扶助、医療扶助</p>	 <p>● 災害救助費 被災者支援、災害見舞金</p>
 <p>● 保健衛生費 医療予防、健康増進事業</p>	 <p>● 環境衛生費 環境美化、墓地斎場</p>	 <p>● 清掃費 ごみ処理、リサイクル</p>	 <p>● し尿処理費 し尿の処理</p>
 <p>● 小学校費 小学校の管理、教育振興</p>	 <p>● 中学校費 中学校の管理、教育振興</p>	 <p>● 社会教育費 文化振興、生涯学習 公民館、図書館</p>	 <p>● 保健体育費 体育施設、給食センター</p>
 <p>● 道路橋りょう費 道路や橋の新設、維持管理</p>	 <p>● 河川費 河川や排水路の整備</p>	 <p>● 都市計画費 街路や公園の整備</p>	 <p>● 住宅費 住宅管理、住宅地整備</p>
 <p>● 総務管理費 文書管理、財務管理、 交通安全、窓口センター</p>	 <p>● 徴税費 税務総務、賦課徴収</p>	 <p>● 選挙費 選挙、選挙管理委員会</p>	 <p>● 統計調査費 統計調査書、委託統計調査</p>
 <p>● 常備消防費 能美広域事務組合(消防本部)</p>	 <p>● 非常備消防費 消防団費、消防団訓練</p>	 <p>● 消防施設費 消防防災施設 ポンプ車整備・購入</p>	 <p>● 災害対策費 防災センター、防災会議</p>

資料3 授業の様子とグループワークの成果物

1 カードゲームをプレイする様子



2 データ入力の様子



3 グループで作成した「増やしたい支出」と「減らしたい支出」①



4 グループで作成した「増やしたい支出」と「減らしたい支出」②



5 グループで作成した「増やしたい支出」と「減らしたい支出」③



6 グループで作成した「増やしたい支出」と「減らしたい支出」④



資料4 授業アンケートの結果

(1) 授業後に実施した授業アンケートの結果

授業終了後に参加した生徒 32 名に対して授業の感想や授業でどんなことを学ぶことができたのかを質問するアンケート調査を実施した。回収率は 100%であるが、一部の質問項目において未回答があったため、それらはアンケート結果には含めていない（円グラフ中の下段の数字は回答数）。

図1 カードゲームは、楽しかったですか？

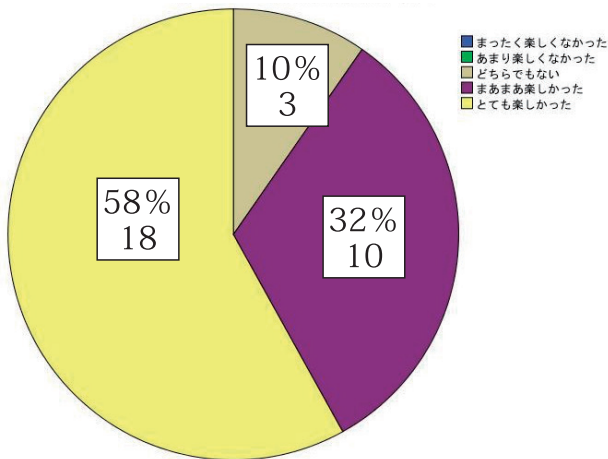


図2 カードゲームは、税金の種類や税金の使い道を学ぶ上で役に立ちましたか？

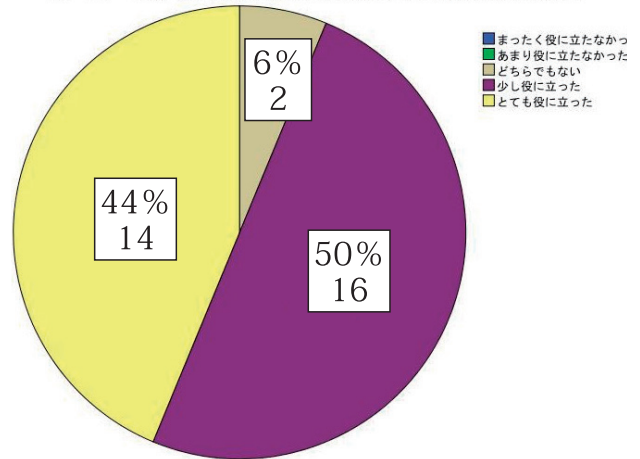


図3 おとなになったときに納める税（市民税）の金額は高いと感じましたか、それとも低いと感じましたか？

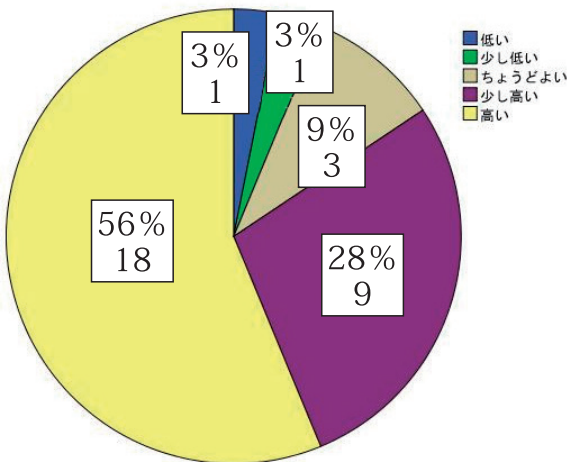


図4 本日の体験学習によって税金についてのどのくらい理解することができましたか？

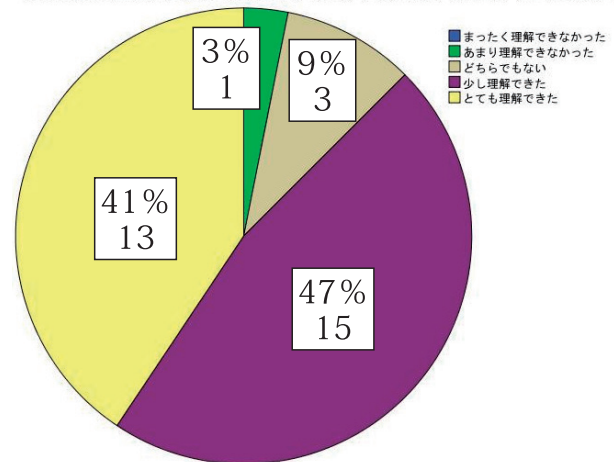


図5 市民が税金の使い方を知ることは大切だと思いますか？

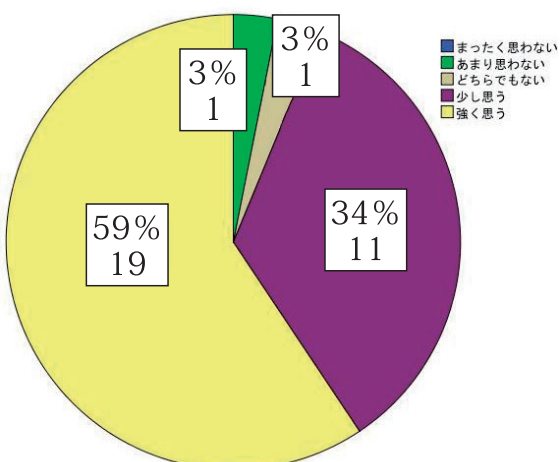


図6 税金を納めることは自分の義務だと思いますか？

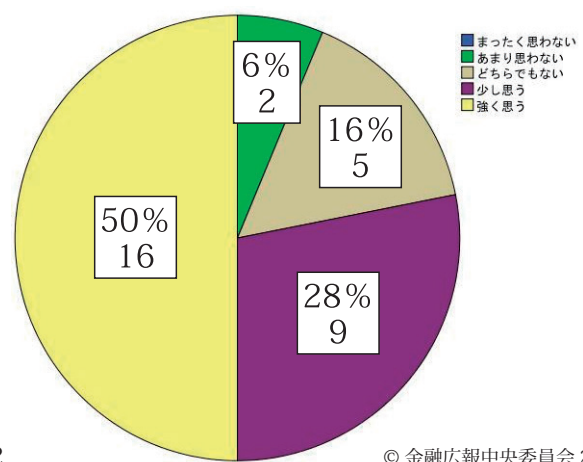


図7 現在の能美市の税金の使い方は適切だと思いますか？

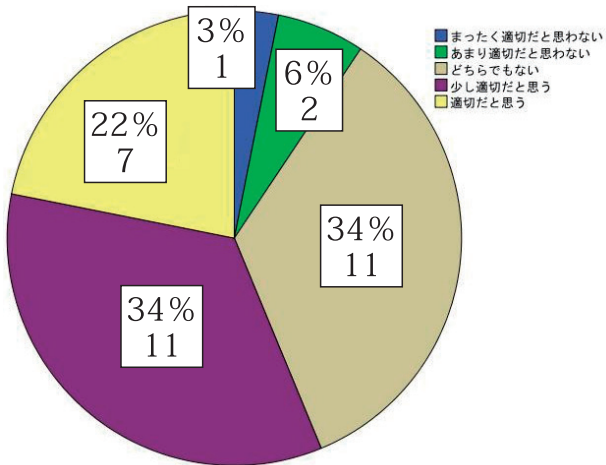


図8 本日の体験学習講座によって能美市のことを知ることができましたか？

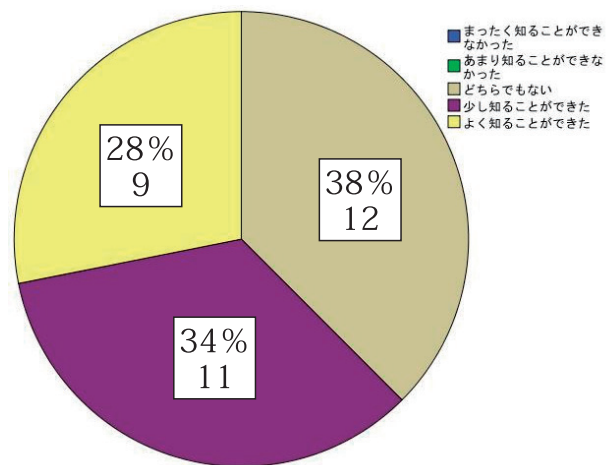
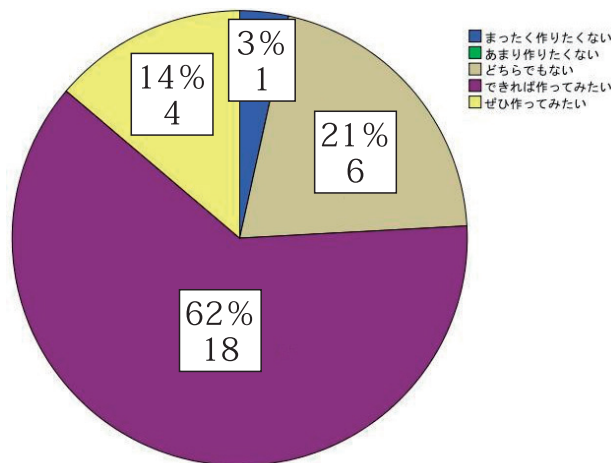


図9 「税金はどこへ行った？」のサイトをまた作ってみたいと思いますか？



(2) 自由記述の回答から一部抜粋

質問「本日の体験学習講座によって税についてどんなことを学ぶことができましたか？ 具体的に書いてください」

- 税は不要なものだと思っていたけど、国をつくる役割があるとわかった。
- 税は必要だと思った。自分もおとなになったら払っていこうと思った。
- 税金は何でかと思ったけど、いろいろなことに使っているんだなと思いました。
- 税には間接税と直接税があることが分かりました。ぼくがおとなになったらどれだけの税金を納めないといけないかを学ぶことができました。
- 税金は公共の施設やみんなが使うものに使われているのだということがわかりました。
- いろいろな税があることを知って驚いた。税は国や市をつくるために大切なことだということがわかった。
- いろいろな税の種類があることがわかった。一つ一つの税がどのくらいかわかった。
- 税の使い道やぼくら中学生も税を払っていることがわかった。
- 能美市の税金の使い方が学べた。また税金を納めなければ大変なことになることがわかった。
- 今まで考えたこともなかった税についてさまざまな税があることがわかった。また市だけの税があることもわかった。
- 能美市で税金を15%も借金の返済に使っていることがわかりました。
- 能美市はどんな税金がどのくらいあるのか、能美市はどれだけ借金があるのかわかった。

資料5 学習ワークシート

体験学習講座ノート	
名前 () () 班	
わかったことや気づいたことを書いていこう	
<small>どくしん たんしんせたい</small> 独身 (単身世帯) の場合の市民税の金額を調べて書き込んでみよう	
年収500万円の場合の市民税の金額	年収1000万円の場合の市民税の金額
円	円
2014年度と2015年度の違いがどこにあるか探してみよう	
2014年度	2015年度

資料6 授業におけるグループワークの進め方（授業スライドより）

<h3>10年後の能美市をどんな町にしたい？</h3> <ul style="list-style-type: none"> • おとなになったときに自分が納めた税金をどのように使ってもらいたいか考えてみよう。 • まずは10年後の能美市をどんな町にしたいか自分の考えを3つ書いてみよう。 	<h3>たとえば、10年後に能美市がどんな町になって欲しい？</h3> <ul style="list-style-type: none"> • 子どもの人数が減って、お年寄りの人数が増えます。 • 自然があったほうがよい？それともビルやデパートがあったほうがよい？ • どんな産業（仕事）が元気になって欲しいか？農業、林業、工場、観光？ • 教育に力を入れて欲しい？
<h3>書いたものをグループ内で見せ合って説明してください</h3> <ul style="list-style-type: none"> • どうしてそう書いたのか（考えたのか）もみんなに教えてあげると、みんなもよくわかります。 	<h3>みなさんが望む10年後の能美市を実現するために歳出のうち金額を増やしたいものと減らしたいものをグループで話し合って決めてください。</h3> <p>カード見ながら、金額を増やしたい項目と減らしたい項目をそれぞれ3つ以上取り出して紙に置いてみてください。</p>
<h3>こんな感じで紙にカードを置いてみてください</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>増やしたいもの</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>減らしたいもの</p> </div> </div> <p>先ほど書いた「10年後の能美市」の紙を関係のあるカードの下に貼ってください</p>	<h3>グループ発表（1班から順番に）</h3> <p>グループで発表者を決めて次の2つのことを発表してください</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 能美市を10年後にどんな町にしたいか？ 2. そのためにどの項目の支出を増やしたいのか、もしくは減らしたいのかを説明してください。

資料7 本授業を実践するための方法

本授業の適用方法について

本授業で使用した税金カードゲームのルールについては実際に作成したカードの図面と共に資料2に掲載した。カードの種類やその内容については学校が所在する自治体の予算書もしくは決算書（款・項・目）を参照の上で作成されたい。「税金はどこへ行った？」は現在170（2015年9月時点）の自治体のサイトがあり、それらはすべて民間の有志によって作られている。サイトを構築するためにはある程度のプログラミングの知識が必要となるが、これらはオープンソースとなっているので、まったくのゼロからサイトを開発する必要はない。本授業で取り組んだ予算データの更新だけならソースを触る必要はほとんどなく、教員がプログラミング初学者であっても取り扱うことが可能な指導計画となっている。